

6. 水稲は自給用のものが多く、両岳作物としての重要性は比較的薄い。又
 溼田の多い事が裏作を不振にしている。今後コンクリート渠その他排水の
 設備をよくすることが必要である。
7. 普通畑も自給用の性格が強く、溼在畑、混合畑となつている。今後、普
 通畑を集田化することが望まれる。
8. 家畜はかなり入つているが、地域内で飼料をまかなえるようにしなくて
 はならない。
9. 果樹は現在の所少ないが、本地域においては一番将来性のあるものといえ
 る。但し、導入する場合には果樹園の集田化、品種の統一等が望まれる。
 又市場との関係では道路網その他交通条件をよりよくしなければならず、
 又早い時期に共同出荷所を設置することが必要である。
10. 本地域の養蚕は県下オ一の妥当収穫量を上げているが尚、稚蚕の共同飼
 育及び糸桑育の普及等につとめるべであらう。
11. 尚、一部において本地域を蔬菜地域、或は花卉栽培地域としようとする
 事も考えられているが、盆地殊より寒いその気候条件、又市場との関係か
 らみてこれはあまり望めない所であらう。

— 上 —

プエルトリコの地誌

林 道 子

目 次

序	研究の目的と方法
第一章	プエルトリコの自然
第二章	プエルトリコの歴史的背景
第一章	イスペインヤの支配
第二章	アメリカの支配
第三章	今日のプエルトリコ
第四章	プエルトリコの経済
第一章	経済的特徴
第二章	プエルトリコの農業
第三章	砂糖の生産構造
第四章	製造所
第五章	水力資源の開発
第六章	米国に対するプエルトリコの経済的結びつき

第五章	プエルトリコの人口
第六章	所得と国民と国民生活
第七章	今後の問題
参考文献	
あとがき	

序 研究の目的と方法

プエルトリコでは、人々がどのような生活が営んでいるか、それを経済生活を中心にして明らかにしていくのが、この研究の目的である。

けだし地理学が終局的な関心を有する各地域における人間の各様の社会生活のおのちは、経済制度のあり方によって相違しているからである。

プエルトリコは、カリブ海の小島であるが、そこには自然的にも人文的にも島全体としての個性とならんで、島の内部での多様性で存在して、一概に一般化してしまうことはできないが、ここでは主として島全体としての個性をとり扱うにとどめた。今日みられる島の個性—その中心としての経済的個性—というものは、それがもたらされた諸条件やその形成過程をみる幸によって明らかにされるが、これらの事は又、島の人々の生活のバックとなつて、島の経済構造を明らかにする上で基本的に必要である。ところで今日のプエルトリコの経済地域性の形成はどの様にして行われたのであろうか。それは“地域の経済発展とそれに基いて具体的な発現形態をとる自然条件”との相互関連的把握によつて理解されるであらう、即ち、島が過去数世紀にわたつて経験したイスパニア重商主義と次いで、アメリカ資本主義の支配によつてその熱帯的気候の下で展開した熱帯性作物への専向化、それが今日のプエルトリコの経済地域性である。ここでは、この様なプエルトリコの地域性形成過程は経済発展史にとどめ、中心はあく迄も今日のプエルトリコにおいた。今日プエルトリコは過剰人口や失業の問題等、非常に深刻な問題を抱えている。それは単にプエルトリコという特殊な島の問題のみでなく米國という大資本主義の勢力圏内にあつて、現代の資本主義経済の矛盾を如実に体現している具体例の一つにほかならない。

八王子盆地の地形と土地利用

古川 晶子

地形と土地利用が必須課題となつたこの卒論に於て、その構成は次の通りである、即ち、選んだ地域が概ねどの様な場所かをしる為、